

施策名：高齢者の生きがいづくりの推進

事業名	担当課・局・室名	ページ
高齢者いきいき実践活動支援事業	高齢者福祉課	2 / 6
老人クラブ助成等事業	高齢者福祉課	3 / 6
シルバーボランティア友愛訪問等活動促進事業	高齢者福祉課	4 / 6
豊の国ねんりんピック開催事業	高齢者福祉課	5 / 6
高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	高齢者福祉課	6 / 6

事業名	高齢者いきいき実践活動支援事業	事業期間	平成 22 年度～平成 24 年度	上位の施策名	高齢者の生きがいがづくりの推進
				担当課・局・室名	高齢者福祉課

[目的、現状・課題]

目的	対象	高齢者	現状・課題	高齢社会の進行にともない高齢者の社会参加の必要性が高まっている。
	意図	高齢者の社会参加を推進する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				21年度	22年度	23年度	24(予算)	
いきいき実践大学の開催	学習の場の確保のため講座を開催(2,131名) 社会活動を行う人材養成の講座を開催(447名)	全部委託	県	総コスト		9,007	9,138	9,139
				事業費		4,007	4,138	4,139
ふるさとの達人事業	工芸、伝統文芸など地域に根ざした技能を持つ人材(グループを含む)の掘りおこしと登録(3分野 360名) 委託先：県老人クラブ連合会	一部委託	県	うち一般財源		2,392	2,523	2,460
				人件費		5,000	5,000	5,000
				職員数(人)		0.50	0.50	0.50

[事業の成果等]

事業の成果	いきいき実践大学の開催により、高齢者の学習の場が確保されるとともに、地域社会の活性化を促す人材を養成することができた。また、豊かな経験や知識、技術を持つ「ふるさとの達人」が数多く登録され、地域の担い手となる人材の確保が図られた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			22年度	23年度	目標値	目標年度			
			子育て支援関係グループ登録数	5	10		24		
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(24年度)	評価	備考
	ふるさとの達人登録者数(人) (累計)	目標値			288	342	396	達成	
		実績値			292	360			
		達成率			101.4%	105.3%			

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	高齢者の社会参加を推進するためには、県内全域に組織されている老人クラブを活用することが効果的であり、豊の国ゴールドプラン21においても老人クラブ活動の活性化を支援する施策の推進を掲げていることから、県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	23年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・事業を県老人クラブ連合会に一部委託	22年度	23年度	ふるさとの達人事業決算額(931,000円) /成果指標の実績値
			3,188 円/人	2,586 円/人	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	高齢者の社会参加を推進する必要があるため
改善計画等	・子育て支援分野のグループ登録を推進		

事業名	老人クラブ助成等事業	事業期間	昭和 5 1 年度～平成 年度	上位の施策名	高齢者の生きがいがづくりの推進
				担当課・局・室名	高齢者福祉課

[目的、現状・課題]

目的	対象	高齢者	現状・課題	老人クラブについて、会員数、クラブ数ともに減少している。
	意図	高齢者の社会参加を促進する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 (予算)
老人クラブ助成事業費補助	社会奉仕活動を行う単位老人クラブへの助成 (1,862クラブ)	間接補助	市町村	総コスト	40,517	40,517	40,517	40,517
高齢者相互支援推進啓発事業費補助	友愛訪問活動について啓発・普及を行う経費の助成	間接補助	大分県老人クラブ 連合会	事業費	39,517	39,517	39,517	39,517
老人クラブ連合会活動推進員設置 事業費補助	老人クラブ等活動推進員の設置経費の助成 (2名)	直接補助	県	うち一般財源	19,758	19,758	19,759	19,759
老人クラブ連合会運営費補助	大分県老人クラブ連合会の運営費助成	直接補助	県	人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数 (人)	0.10	0.10	0.10	0.10

[事業の成果等]

事業の成果	老人クラブが行う清掃活動、健康づくり活動、友愛訪問活動、奉仕活動を通じて、高齢者の社会参加が促進されるとともに、地域における高齢者福祉の推進が図られた。	活動指標	指標名 (単位)		事業の実績		最終目標		
					2 2 年度	2 3 年度	目標値	目標年度	
			若手委員会 (部会) の設置市町村 (市町村)		1	1			
			若手委員会 (部会) 委員数 (人)		15	15			
成果指標	指標名 (単位)	達成度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度	最終達成 (2 7 年度)	評価	備考
	老人クラブ加入率全国順位 (位)	目標値	19	19	19	18	15		・達成率が算出できないのは、目標値と実績値が全国順位との比較であるため ・2 3 年度実績値がないのは、全国状況を集計中のため
		実績値	19	18					
		達成率							

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	老人クラブ活動等事業実施要綱	豊の国ゴールドプラン21において、老人クラブの育成と支援を図り県内全体の高齢者の福祉の増進を図ることは、県の業務として位置づけられている。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	2 3 年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し (業務の民間委託など) を図っているか	図っている (拡大困難)	・大分県老人クラブ連合会の運営費助成を廃止し、老人クラブ等活動推進員の設置経費の助成を拡充	2 1 年度	2 3 年度	成果指標が全国順位であるため 効率性指標が算出できない

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	老人クラブの育成と支援が図られているため
改善計画等	・若手高齢者の加入促進のため市町村老連の若手委員会や部会の設置を支援		

事業名	シルバーボランティア友愛訪問等活動促進事業	事業期間	昭和 6 1 年度～平成 年度	上位の施策名	高齢者の生きがいがづくりの推進
				担当課・局・室名	高齢者福祉課

[目的、現状・課題]

目的	対象	一人暮らしの高齢者世帯	現状・課題	一人暮らし高齢者について、孤独感の解消や安否確認、事故や悪徳商法等による被害防止を図る支え合い活動が必要となる。
	意図	孤独感を解消し安心して生活できる		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 (予算)
地域支え合い事業	老人クラブ会員によるひとり暮らしの高齢者世帯訪問による安否確認、相談等を実施 (訪問回数193, 850回) 高齢者が企画した各種活動 (研修旅行・学習会・スポーツ大会等) に対する助成 (36件)	間接補助	市町村	総コスト	5, 700	11, 500	11, 500	14, 578
健康づくり支援事業				事業費	4, 700	9, 500	9, 500	12, 578
				うち一般財源	2, 350	4, 750	4, 750	6, 289
				人件費	1, 000	2, 000	2, 000	2, 000
				職員数 (人)	0. 10	0. 20	0. 20	0. 20

[事業の成果等]

事業の成果	一人暮らし高齢者の訪問活動を通じ、孤独感の解消や安否確認などが図られるとともに、高齢者が自ら企画した研修旅行やスポーツ大会、学習会などの活動を支援することにより、高齢者の生きがいと健康づくりを推進することができた。	活動指標	指標名 (単位)		事業の実績		最終目標		
					2 2 年度	2 3 年度	目標値	目標年度	
			県老連友愛活動研修会開催箇所数 (か所)	1	2				
			健康づくり支援事業開催件数 (件)	33	36				
成果指標	指標名 (単位)	達成度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度	最終達成 (年度)	評価	備考
	訪問回数 (回)	目標値	400, 000	320, 000	220, 000	220, 000		達成不十分	
		実績値	253, 731	169, 483	193, 850				
		達成率	63. 4%	53. 0%	88. 1%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	老人クラブ活動等事業実施要綱	豊の国ゴールドプラン21において、老人クラブの育成と支援を図り県内全体の高齢者の福祉の増進を図ることは、県の業務として位置づけられている。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	2 3 年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し (業務の民間委託など) を図っているか	図っている (拡大困難)		2 1 年度	2 3 年度	地域支え合い事業決算額合計 (4, 700千円) / 成果指標の実績値
			19 円/回	24 円/回	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	一人暮らし高齢者の訪問活動を通じ、孤独感の解消や安否確認などが図られているため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 活動の停滞した地域をモデル地域として選定し、活動員の養成や組織づくりを重点的に指導することにより市町村間の格差の解消を推進 「友愛訪問活動」実施要領を作成し、高齢者が記入しやすい報告書の様式を定め市町村老連に提示 2 5 年度は小規模集落対策関係事業等との連携強化策を検討 		

事業名	豊の国ねんりんピック開催事業	事業期間	平成 2 年度～平成 年度	上位の施策名	高齢者の生きがいづくりの推進
				担当課・局・室名	高齢者福祉課

[目的、現状・課題]

目的	対象	高齢者を中心とした県民	現状・課題	高齢社会の進行にともない高齢者の生きがい健康づくりの必要性が高まっている。
	意図	高齢者の生きがいと健康づくりを推進する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				21年度	22年度	23年度	24(予算)	
豊の国ねんりんピックの開催	スポーツ交流大会(11種目13競技) ふれあい交流大会(4種目) ふれあいニュースポーツ シルバー囲碁、将棋、俳句大会 ふれあい広場 シルバー作品展、短歌・俳句・川柳展 委託先：(社福)大分県社会福祉協議会	全部委託	県	総コスト	9,594	9,594	9,594	9,594
				事業費	8,594	8,594	8,594	8,594
				うち一般財源				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		22年度	23年度	目標値	目標年度
豊の国ねんりんピックの開催により、高齢者を中心とする県民の健康の保持・増進、社会参加、生きがい等の高揚が図られ、ふれあいと活力のある長寿社会づくりが推進された。	大会開催協力団体数(団体)	18	18		

成果指標	指標名(単位)	達成度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終達成(年度)	評価	備考
			目標値	6,000	5,300	5,400			
スポーツ大会参加者数及びシルバー作品展出展者数(人)		実績値	5,278	5,353	5,275		概ね達成		
		達成率	88.0%	101.0%	97.7%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	豊の国ねんりんピックは、県単位で開催される唯一の高齢者のスポーツや文化・芸術を通じた交流大会であり、県民の健康の保持・増進、社会参加、生きがい等の高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを推進するため県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	23年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			21年度	23年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・高齢者団体の自主運営による地域伝承ふれあいコーナーの強化 ・サッカーを競技種目に加える等実施種目の充実	2 千円/人	2 千円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	引き続き高齢者の生きがいと健康づくりの推進が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者団体等によるふれあいコーナーの実施内容の改善・強化等により、より一層の三世代交流の場を提供 スポーツのみならず文化活動や福祉及び健康増進の場とするため広報等を強化 スポーツ交流大会の実施種目を検証し、より多くの高齢者が参加できる内容になるような取組を検討 		

事業名	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	事業期間	平成 12 年度～平成 年度	上位の施策名	高齢者の生きがいづくりの推進
				担当課・局・室名	高齢者福祉課

[目的、現状・課題]

目的	対象	高齢者を中心とした県民	現状・課題	高齢社会の進行にともない高齢者の生きがい健康づくりの必要性が高まっている。
	意図	高齢者の生きがいと健康づくりを推進する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				21年度	22年度	23年度	24(予算)	
長寿いきいきセンターの運営	生きがい健康づくり推進協力員の養成・育成(266人) 協力員活動の支援 センターの運営(人件費補助等) 委託先：(社福)大分県社会福祉協議会	全部委託	県	総コスト	20,666	21,249	20,278	20,300
				事業費	19,666	20,249	19,278	19,300
				うち一般財源	7,359	8,999	7,956	19,300
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	達成度	事業の実績				最終目標	
			22年度	23年度	目標値	目標年度		
生きがい健康づくり推進協力員やグループの養成を行うことにより高齢者の社会参加活動等が促進されるとともに、全国健康福祉祭・豊の国ねんりんピック・シルバー作品展等の協力を行うことにより、高齢者の生きがいと健康づくりが推進された。	活動指標							
	ニュースポーツ用具貸出件数(件)		125	120				
	ニュースポーツ用具利用者数(人)		4,536	5,650				

成果指標	指標名(単位)	達成度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終達成(年度)	評価	備考	
	生きがい健康づくり推進協力員数(人)	目標値		266	266	266			達成	
		実績値		266	286	266				
		達成率		100.0%	107.5%	100.0%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	都道府県明い長寿社会づくり推進機構事業運営要綱	県民の健康・生きがいづくりを促進するため、生きがい健康づくり推進協力員の養成・育成を行い、ニュースポーツ用具の貸出による健康づくりを図るとともに、全国健康福祉祭への選手派遣及び県・県教委・県社協が共催する豊の国ねんりんピック・シルバー作品展等を開催するため県による実施が必要。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	23年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			21年度	23年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・センターの運營業務を(社福)大分県社会福祉協議会に委託 ・県内10か所に地区活動協議会を自主的に設置し地域活動を推進	78 千円/人	76 千円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	引き続き高齢者の生きがいと健康づくりの推進が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度より、生きがい健康づくり講習会を地域で開催し、地区活動協議会の自主的活動を支援 スポーツによる健康・生きがいづくりのみならず、文化活動による健康・生きがいづくりを促進するため広報等を強化 新規の推進員の募集を強化するとともに、活躍の場を増やすため、サロン活動への講師派遣や市町村報への掲載などにより市町村及び関係団体へ周知 		